

前に進める

犬山だより

犬山市長

原よしのぶ

9号



多くの外国人の方が犬山市に住んでいることはご存じですか…

住んで幸せなまちってなんなんでしょう。

これまで全国住みやすさランキングや全国主要8都市魅力ランキングなど、何でも順位をつけてきました。でも、その判断は誰がしたのか。わたしたち大人です。一方、外国人の方や子ども目線でランキングをつけたらどうなるのでしょうか。そんな想いを寄せて広報11月号に特集を組ませていただきました「多文化共生」についてわたしたちからも考えをしたためたいと思います。

犬山に住む外国人の方の今とこれから

犬山市に住む外国人の方は、約2,700人です。犬山市における外

国人の特徴は、全国的に珍しいペルー人の集住地域であることや、これまで一番多かったベトナム人は減少傾向にあること、一方、フィリピン人やネパール人が増えていることです。

その状況で、こんな数字を目にしました。日本が今の経済成長を維持していくために、2040年には2020年の4倍の外国人労働者が必要になるといいます。となれば単純計算ですが、犬山市に1万人以上の方が生活することになります。

日本に来た外国人の方の生活は

外国人の方がまず仕事をするための就労先は、手取り早い派遣社員を選択します。でも、長続きはしません。生活が安定しないからです。大切なことは、正規社員として働くことです。安定した雇用と収入の確保が必要です。

仕事について、生活が安定し、子どもに投資ができ、さらには税金が納められ、退職後も安心できる環境のサイクルが重要なのだと思います。

その実現のために

「就労」から「子育て」、「高齢者」といったライフステージに沿った多文化共生社会の実現のために多文化共生推進会議を立ち上げました。ここで今年度実施する外国人実態調査の内容と方法を検討し、調査結果の検証と施策を考えていきます。また、令和6年度に見直し策定する多文化共生推進ビジョンにつなげていきます。

そこにある想いは…

外国人の方に、「犬山が好きになった。」「犬山にずっと住み続けたい。」「犬山の力になりたい。」そんな思いになっていただきたいからです。



▲愛知県多文化共生
シンボルマーク

多文化共生のまち犬山を目指して、前に進めていきます。